# 有識者ダイアログ

## 様々な活動が着実に進んでいると評価しています

あらゆる活動に対して誠実に取り組み、着実に進んでいると評価しています。サステナビリティレポートでの情報開示も毎年分かりやすくなっています。今後も、自信を持って開示していくべきです。発信していくことで、自分たちが気づくこともあると思います。特に2020年はコロナ禍によるパラダイムシフトが起こる中で、どのような変革が起きたか、難しかったことも含めて、発信すると良いと思います。

開示に関しては、海外の人材に関するデータの拡充が望まれます。人事データの集計基準は国内外で異なり難しい面もありますが、労災に関するデータなど、優先順位の高いものから開示に取り組んでほしいです。また、海外子会社の取り組みをもっと開示してほしいです。インドネシアにおけるムスリムへの配慮など、地域によって異なる課題への対応について、詳しく開示してほしいと思います。

「持続可能な調達」は、環境問題、人権、コミュニティ面が複合的に関わっている分野です。パーム油の調達でRSPOと連携しているように、各領域での活動団体と提携するのも良いと思います。さらに、海外ではアニマルウェルフェアも注目を集めていますが、サプライヤーやNGO等とパートナーシップを組みながら、サプライチェーンのマネジメントについて検討していってほしいです。

赤羽 真紀子氏

CSRアジア株式会社
日本代表

早稲田大学で政治学と生物学を修める。様々な業種の多国籍企業のCSR担当として通算10年以上の経験を有し、スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)の各社で関連部署の立ち上げを手がける。2010年より現職

## 製品の調達ストーリーなど、どんどん発信してほしいです

ダイアログの参加は4回目ですが、一部製品で賞味期限の年月表示を開始するなど、ダイアログの内容が反映されていく様子を見ています。サステナビリティレポートでの開示に工夫も見られます。実績ハイライトのページはグラフ化されたことで、目標への進捗が非常に分かりやすくなりました。

食品ロス削減とコミュニティへの参画の観点で、フードバンクへの寄付を継続されていると思いますが、関わり方は製品の寄付に限りません。フードバンクの団体は、小さな団体であることも多く、寄付品を保管する場所がないという課題もあります。冷蔵庫や冷凍庫の一部を保管場所として提供するなど、新たな貢献も検討してほしいです。

SDGsの認知度が高まる中、消費者とのコミュニケーションの重要性も増しています。社内では当たり前になっていることも、社外には知られていないことが多いので、どんどん発信してほしいです。消費者との大きなコミュニケーションツールの1つになるのは、製品パッケージです。調達のストーリーを伝えたり、賞味期限と消費期限の違いを啓発したり、様々な活用法があると思います。ロッテだからできる発信を引き続き考えていってほしいです。

井出 留美氏

ジャーナリスト、食品ロス問題専門家
第2回食生活ジャーナリスト大賞
(食文化部門)受賞者

奈良女子大学食物学科卒、博士(栄養学　女子栄養大学大学院)、修士(農学　東京大学大学院農学生命科学研究科)。ライオン(株)、青年海外協力隊を経て日本ケロッグ広報室長等歴任。東日本大震災の際に、食料支援で食料廃棄に憤りを覚え、誕生日を冠した(株)office 3.11設立。日本初のフードバンクの広報を委託され、PRアワードグランプリソーシャルコミュニケーション部門最優秀賞へと導く。著書に『賞味期限のウソ 食品ロスはなぜ生まれるのか』、『あるものでまかなう生活』など

（株）ロッテでは、2018年より外部有識者の方をお招きし、ダイアログを実施しています。ダイアログでは、サステナビリティへの取り組みについて忌憚のないご意見や今後に向けたアドバイスをいただき、活動に反映しています。2021年は2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大を防止するためオンラインにて実施しました。

## ロッテが果たす役割の大きさを改めて感じています

2020年はコロナ禍で、社会全体が大変な年でした。ロッテには、工場にお勤めの方など在宅勤務ができないエッセンシャルワーカーの方もたくさんいると思います。食の安全・安心はもちろんのこと、従業員の健康など細心の注意を払いながら事業活動を継続するという、大変な日々が続いているのではないかと想像しています。自粛期間の長期化で、私自身も疲弊する場面もありましたが、そんな時お菓子を食べると気持ちが和みました。不安感がある社会情勢で、ロッテが果たす役割の大きさを改めて感じています。

様々な出来事がある中、2020年7月にはレジ袋が有料化されました。衛生意識の高まりで、使い捨てプラスチックは衛生的という意見もありましたが、エシカル消費やプラスチックごみへの注目は変わらず高まっています。特に高校生や大学生など若い世代の関心は、非常に高いと感じています。

2028年までに、「『噛むこと』を意識して実践している人の割合」を50%以上にする目標を達成するために、様々な取り組みや研究結果を、一層伝えていってほしいと思います。噛むことで連想することの1つは、チューインガムです。チューインガムで創業したロッテだからこそ、ガムを噛むときの新たなマナーや、新しい楽しみ方を発信するなど、工夫を続けてほしいと思います。

## SDGs目標年までの9年間を有意義に使ってほしいです

「サステナビリティレポート2020」と比較して、非常に分かりやすくなりました。2020年は、コロナ禍もあり、SDGsの関心が非常に高まった年でした。様々な企業のSDGsを見る中で、表面的な取り組みなのか、本気で取り組んでいるのか、その差がクリアになってきたと感じた年でもありました。今後は、SDGsの169のターゲットへの貢献にも踏み込んだ取り組みを期待しています。

特に、食に関する目標やターゲットへは一層貢献できると思います。健康に寄与する製品はどのターゲットに貢献するのか、エビデンスをもとに価値創造のストーリーを開示してほしいです。また、製品のライフサイクルに関わる取り組みを、消費者とのパートナーシップという観点から推進してほしいです。消費者の社会課題への関心も高まっている中で、パッケージの廃棄に困る場面もあると思います。例えば、食べ終わった製品の容器を回収できないかなど、消費者とコミュニケーションを取りながら、一緒に新たな価値を創造する取り組みを期待しています。SDGsの目標年の2030年まで、9年あります。SDGsに真面目に取り組んでいるロッテだからこそ、時間を有意義に使い、更なる飛躍を遂げることを楽しみにしています。

浦郷 由季 氏

一般社団法人全国消費者団体連絡会＊
事務局長

大学卒業後、7年間の会社勤めの後、専業主婦として子育てをしながら生協の活動に関わる。生活協同組合ユーコープ、日本生活協同組合連合会の理事を経て、2017年5月より現職。厚生労働省、食品安全委員会、消費者庁、消費者委員会などの審議会等委員を務める（＊ 消費者団体の全国的な連絡組織で、くらしに関わる様々なテーマについて、審議会への委員参加やパブリックコメントの提出などを通じて消費者の立場から意見発信をしている）

蟹江 憲史 氏

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 教授

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士（政策・メディア）。北九州市立大学助教授、東京工業大学大学院 社会理工学研究科准教授を経て、2015年より現職。2023年 Global Sustainable Development Report 執筆の15人の独立科学者の一人に国連事務総長から選出されている。2014年より国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー、2020年より同非常勤教授を務める

# 有識者ダイアログ

## ロッテならではの新しい価値創造を期待しています

昨年度からダイアログに参加していますが、良い形で進んでいると思います。野心的な目標が多く、パーパスが設定されている点も評価できます。次に設定してほしいのは、ビジョンです。特に、パンデミックによって在宅勤務などが普及したことで、会社とは何か再定義が必要だと思っています。これまでは出社していれば、自然と会社の一員になれるような錯覚があったと思いますが、これからは、どこにいても同じ目的を共有している集団であるべきです。会社の本来の意味が問われている時代だからこそ、ビジョンは、従業員の拠り所や働きがいの源泉となり、大きな役割を果たすと思います。

また、「従業員の能力発揮」では、従業員が創造的貢献をできる風土醸成も重要です。従業員にとって、自分の仕事が社会を良くしているという実感がモチベーション向上につながり、イノベーションが起こりやすい環境が作られます。ロッテは、身近な幸せと大きな幸せを実現できる会社だと思います。チョコレートを食べておいしいと感じると同時に、そのチョコレートでカカオ農家は生計を立てられるようになる。会社の内外のステークホルダーを大切にしながら、新しい価値を発揮し続けてほしいです。

ピーター D. ピーダーセン氏

NPO法人NELIS 代表理事
大学院大学至善館 教授

デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。1984年から日本での活動を開始。2000年に(株)イースクエアを共同創業、代表取締役社長に就任。2011年同社共同創業者に。2014年からは(株)トランスエージェント内リーダーシップ・アカデミーTACL代表に就任。2015年には(一社)NELIS次世代リーダーのグローバル・ネットワークの共同代表に就任。2019年より大学院大学至善館教授を務める。2020年より現職

### ダイアログを受けて

## 持続可能な社会の実現に向けて、私たちに期待されていることに着実に取り組んでまいります

今年もステークホルダーを代表して5名の外部有識者の方々とダイアログを実施いたしました。私たちの1年間の活動結果を客観的にご評価いただき、さらにこうしたら良いのにとのアドバイスをいただける大変貴重な機会だと実感しております。例えば前回のダイアログでは、強く活発な組織を作るにはパーパスが重要とのご助言をいただき、昨年策定いたしました。折しもコロナ禍で従業員が自社の存在意義を再認識し、社会に提供すべき価値を見つめ直す良いきっかけになりました。

今回もたくさんのご指摘とエールを頂戴いたしました。コロナ禍を経験し世の中がSDGsへの関心を高めたため、本気で取り組んでいる企業とそうでない企業が見抜かれているとのご指摘には背筋が伸びる思いでした。またお菓子やアイスは身近な幸せと大きな幸せの両方を叶えられるのだから、もっとその価値をPRすべきと言われ、大変勇気が湧きました。

持続可能な社会の実現に向けて、私たちに期待されていることに着実に取り組んでまいります。

坂井 建一郎

株式会社ロッテ
上席執行役員